

会 議 録

会議テーマ	令和7年度 第2回阿南市総合教育会議		
開催年月日	令和8年2月20日(金)	資料の有無	有
会 場	阿南市役所6階 603・604会議室		
出席者	<p>【構成員】</p> <p>岩佐市長、坂本教育長、林教育長職務代理者、里美教育委員、 新居教育委員、岡本教育委員</p> <p>【事務局】</p> <p>幸泉企画部長、七條企画政策課長（司会）、西田主事</p> <p>【関係課】</p> <p>安富教育部長、西岡教育総務課長、小笹教育総務課課長補佐、磯部学校教育課長、田上生涯学習課長、清原人権教育課長、篠原スポーツ振興課長、吉村学校給食課長、岡部青少年健全育成センター所長、松本那賀川図書館長、堀科学センター館長、市瀬教育研究所副所長</p>		
傍聴者	1人		
内 容			
<p>13:15 開会</p> <p>【七條企画政策課長】</p> <p>定刻になりましたので、ただ今から令和7年度第2回阿南市総合教育会議を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、委員の皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>昨年7月29日に今年度第1回目の総合教育会議を開催いたしました。その際、今年度の会議開催は1回の予定とお伝えしていましたが、本日の協議事項は総合教育会議法第2条に定める所掌事務に深く関わる、教育の振興及び教育行政の公正かつ適正な運営に係る重要な案件であるため、急遽第2回目の総合教育会議を開催させていただくことになりました。本日は午後2時45分までの1時間30分を予定しております。どうぞよろしくお願いいたします。着座で失礼いたします。</p> <p>初めに本日の資料の確認をお願いいたします。お配りした資料は、次第、資料1、資料2は阿南市子ども議会の質問テーマと市政への反映状況という1枚ものの資料となっております。これらと合わせて、事前にお送りしました子ども議会の会議録も一緒に御説明いたします。本日の資料は以</p>			

上です。不足等はございませんでしょうか。ありがとうございます。

この会議は阿南市総合教育会議設置要綱第6条の規定により公開され、また同要綱第7条の規定により会議録を作成することになっております。会議の発言内容を録音させていただきますので、あらかじめ御了承ください。また後日、会議録を市のホームページにも掲載いたしますので、御承知おきのほどよろしくお願いいたします。

それでは初めに、岩佐市長から御挨拶をいただきます。

【岩佐市長】

皆さん、お疲れ様です。本日は皆様方にはお忙しい中、総合教育会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。また、教育委員の皆様方には、日頃から本市のこどもたちの健やかな成長と教育環境の向上に向けて、多大なる御尽力をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。また、さまざまな場面で御支援や御提言等をいただいております、重ねてお礼申し上げます。

さて、本日は先ほど課長からもお話がありましたが、2回目となる総合教育会議を開催いたします。協議事項は次第のとおりですが、一つ目として「阿南市内における公立高等学校の在り方について」、二つ目として「徳島県公立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（案）について」、三つ目として「昨年8月に開催した市内中学生によるこども議会の提案への対応について」、そして「その他」の4点となっております。

本会議を通じて教育現場の課題や現状を共有し、皆様との連携をさらに深めながら、教育の向上に努めてまいりたいと考えております。本日も忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げます。開会にあたっての御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【七條企画政策課長】

続きまして、協議に移らせていただきます。総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づきまして、市長に議長をお願いいたします。

【岩佐市長】

それでは会議に入らせていただきます。まず協議事項の一つ目であり、阿南市内における公立高等学校の在り方について、教育総務課から説明をお願いします。

【西岡教育総務課長】

こんにちは。どうぞよろしくお願いいたします。私からは前の画面で説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。説明時間は10分程度を予定しております。10分程度に要点をまとめておりますので、言葉足らずの部分もあるかもしれませんが、御了承ください。

それでは私から「阿南市内における公立高等学校の在り方について」説明をさせていただきます。まず最初に記載しております「市内の県立高校すべてについて、再編ありきではなく、まずは教育

環境の確保のため、いかに残すかという観点から検討を進めてほしい」という言葉は、実は令和8年1月23日にオンラインで開催された「公立高等学校の在り方に関する市町村長会議」で、岩佐市長の代理で出席した副市長から発言があった言葉です。

公立高等学校の在り方の検討背景の一つとして人口減少があります。先日2月18日に県のホームページで「徳島県公立高等学校の在り方について1次取りまとめ」という報告が公表されました。そこには「加速する人口減少という厳しい現実を、一人一人に深く寄り添う質の高い教育への転換点と捉え直す」という報告がありました。こうした背景で現在、公立高等学校の在り方の検討が進められているところです。

これまでの経緯について説明させていただきます。徳島県では令和7年3月に「通学区域制に関する有識者会議報告書」が出され、大きく二つの項目があります。一つが入学者選抜に関する提言、もう一つが今後の検討を要する事項についてです。

入学者選抜の改革については、最も大きな変更として、令和11年度入学者選抜から県立高校普通科の通学区域を県内全域とする見直し方針が令和7年3月13日に示されています。

さらに「公立高校の在り方の方向性に関する意見」として3点あるのですが、今日は時間の関係で、このうちの2点を御説明いたします。その一つが「普通科高校の適正配置や再編統合など公立高校の在り方について検討委員会において議論し方針を示すことが必要」ということです。現在、徳島県では「徳島県公立高等学校の在り方検討会議」が開催されており、令和7年度はすでに4回開催されています。詳しい説明は時間の関係で省略させていただきますが、来年度令和8年度も4回の会議が実施される予定です。

徳島県では県内各地でタウンミーティングを実施し、令和7年9月から11月まで開催されました。阿南市・那賀郡の阿南会場では令和7年10月14日に夢ホール研修室で開催されています。

もう1点、通学区域制に関する有識者会議報告書で重要なところは「地元自治体をはじめ多様な主体とともに各高校のさらなる特色化・魅力化を進めることが必要」とされていることです。

前の画面は県内の高等学校・中等教育学校の配置から阿南周辺を抜き出した画面です。現在、阿南市内の公立高等学校は、入学者選抜の生徒募集案内によると5つあります。富岡東高校、富岡東高校羽ノ浦校、富岡西高校、阿南光高校、富岡東高校定時制課程です。これらの高校ではスクールミッション及びスクールポリシーを設け、それに基づく特色化・魅力化が行われています。

スクールミッションとは各公立高校の存在意義や期待される社会的役割、目指すべき学校像を示したもので、スクールポリシーは各公立高校の教育活動の指針となる三つの方針（育成を目指す資質・能力に関する方針、教育課程に関する方針、入学者受け入れに関する方針）のことで、このスクールミッション・スクールポリシーは各高校で設定されていますが、本日事前にお配りした資料に詳しく記載しておりますので、今回は説明を省略させていただきます。

さらに市内には、先ほど説明した高校以外にも魅力ある学校があります。阿南支援学校の高等部、そして阿南工業高等専門学校です。これらの学校では多様な学びとして、普通科、商業科、看護科、理数科、工業科、産業創造科、生活科学科、産業工芸科など、さまざまな学科で学ぶことができる

状況となっています。

次に進めさせていただきます。これは令和7年10月17日の県の在り方検討会議第2回会議資料から引用したのですが、徳島県では「公立高等学校の在り方に関するアンケート」を中学生、高校生、その保護者を対象に実施しています。いくつか質問項目がありますが、その一つに「あなたが『こんな高校だったらいいな』と思うのはどのような高校ですか」という質問があります。

このアンケート結果を考察したところ、二つのキーワードが出てきました。一つは生徒については「個性を尊重」、保護者については「多様な進路」です。中学生の回答で最も多かったのが「個性を尊重する高校」、保護者に関しては「多様な進路に対応できる高校」でした。高校生も「個性を尊重する高校」、高校生の保護者も「多様な進路に対応できる高校」という回答で、中学校・高校ともにアンケート結果が一致しています。

そのため、魅力化・特色化のキーワードは「個性の尊重」「多様な進路」にあるのではないかと考えます。また、この個性の尊重・多様な進路は本市の教育政策の方向性と一致しています。

前の画面に阿南市総合計画のビジョンを表示しています。阿南市総合計画では「輝く個性を育む自然と調和した産業都市 阿南」を目指すとして、個性を非常に大切にしています。さらに教育大綱・教育振興基本計画においても「学び つながり 輝け 自分」という教育理念のもと、この「自分」というのは個性や多様性を認め合いながら高め合う姿を追求したものです。

今日は「多様な進路」をキーワードに、残り少し説明させていただきます。高校を卒業すると、その後の進路として進学、就職、またその他もあります。それぞれ高校卒業後には多様な進路があります。今日は時間の関係上、キャリア教育に特化して説明いたします。

阿南市総合計画・阿南市教育振興基本計画においては、こどもたちの多様な進路として「持続可能な地域社会の実現に向けた教育の推進」施策としてキャリア教育を推進しています。さらに先ほど発表されたとお伝えした「徳島県公立高等学校の在り方についての1次取りまとめ」でも、徳島県は「自律的な学びを促すキャリア教育と各校の特色に関する情報発信の強化」に力を入れています。多様な学び・進路ということで、これらの高校で学ぶ生徒の皆さんが多様な進路を選択している状況です。

すべての学校のキャリア教育等を説明できればよいのですが、時間の関係で阿南支援学校高等部と阿南工業高等専門学校キャリア教育について少し触れさせていただきます。

阿南支援学校では、学校のパンフレットもお配りしていますが、特色ある取組として地域の企業や公共施設への地域貢献活動のほか、地域の企業団体等とのコラボレーションによる社会貢献活動、キャリア教育の推進等に取り組んでいます。

阿南工業高等専門学校について説明いたします。耳慣れない「コーオプ教育」という言葉ですが、阿南高専では従来のインターンシップだけでなく、長期間にわたり同一企業で就業研修を受けることによって、阿南高専での学習を実践的に深め、エンジニアとして大きな成長を目指す教育プログラムを実施しています。前の画面にあるように非常に長期間の研修で、3年生の時には夏季休業期間に3週間、春季休業に2週間、また4年生になると春季休業に2週間というようなキャリア教育

に取り組まれています。

繰り返しになりますが、このように阿南市内の学校においては多様な学び、さらに多様な進路を実現するよう取り組んでいます。

最後になりますが、最初に説明させていただいた「阿南市内の県立高校すべてについて、再編ありきではなく、まずは教育環境の確保のため、いかに残すかという観点から検討を進めてほしい」というキーワードを、本日委員の皆様方に共有していただければと思います。私からの説明は以上です。

【岩佐市長】

ただいま教育総務課から説明がありましたが、これらを踏まえた上で委員の皆様から御意見や御質問等をいただけたらと思います。時間の関係もありますので、2分程度以内で皆様方から発言いただけたらと思います。林委員からお願いいたします。

【林委員】

事前に配布された資料を拝見いたしました。市議会においても、阿南市立の農業や、野球に特化した特色ある取組についての提案があったと記憶しております。

また、今議会での県の答弁によれば、今年度、県外から県内の高校へ入学した生徒は120人に上るとのことです。今後、県外からの生徒をどの学校で受け入れていくのかという点も課題になるかと思えます。

高校野球では、県西部の池田高校、県南部では海部高校に、県外から多くの生徒が集まっています。海部高校の関係者によると、コロナ対応の病室を高校生の寮に転用したところ入寮希望者が多く、地域の方が食事の世話をしてくださるなど非常に温かい環境であるため、今後も希望者は増えるだろうとのことでした。一方で、新聞報道にもあった通り、海部高校の15年後の入学生は郡内で40人を切ると予測されています。

那賀郡の現状について、以前、元教育委員会や元町村長の方々と意見交換をいたしました。そこでは、市や郡という枠組みを超え、県南部全体でどのような高校が必要かという視点に立ち検討することが大切ではないかと。普通科だけでなく、阿南市議会でも質問されていた一次産業の担い手不足への対応が急務です。生徒数の減少という問題にとどまらず、これからの農業、漁業、林業をどう支え、地元で貢献できる人材をどのように育てるかが問われています。那賀高校には現在特化した学科がありますが、15年後には少子化により十分な生徒が集まらない恐れがあるという御意見もありました。

阿南市と海部郡ともに林業や農業をどうしていくのか。また、水産高校の閉校以降、県南部には漁業の担い手を育てる環境がありません。これらの課題に対し、阿南市を中心とした拠点づくりを考えていく必要があると強く感じております。つきましては、阿南市と他の郡部との情報交換の状況や、今後の進行状況について教えていただければ幸いです。

【岩佐市長】

ありがとうございます。次に新居委員お願いします。

【新居委員】

阿南市から徳島市に出て行けるような環境ができてしまうと、多くの子どもたちが出て行ってしまわないかという心配があります。そのような中で、やはり目に見えて「ここが素晴らしい」というものを提案していかなければ、「私たちにはこれができます」という言葉だけでは力が足りないのではないかと考えています。

これから少子化に向けて、いろいろな学校の在り方も変わってくると思うのですが、例えばここならではの農業や林業、漁業、そういうものに特化した取組や、eスポーツ、メディア、また観光やホスピタリティなどを専門に学べるような環境があったら観光にもつながるし、魅力を伝えるためにもとても良い学習スタイルになるのではないかと思います。

また、私の息子たちはアメリカの学校を卒業しており、彼らともいろいろ話をしたのですが、向こうの地方に行くと複合型の学校があるそうです。高校と専門学校が一緒になっていたり、小中高から専門学校まで一緒になっていたりします。神山高専のように、そこでしか学べない特色ある教育を行うことで、外部から多くの方が学びに来る環境を作ることも可能です。このように、外部からさまざまな案を取り入れ、良いものを残しつつ新しいものを取り入れるという発想も大切になってくるのではないかと思います。

【岩佐市長】

ありがとうございます。それでは、岡本委員お願いします。

【岡本委員】

まず先ほどの資料を見させていただいて、アンケートの結果から「こういう風に子どもたちが育っている」というのを見て、すごく安心した部分があります。それに伴って今後、高校の無償化にもなる方向があるというところで、市外・県外へ出て行く子どもたちがこれから多くなることが予想されるかと思います。

でも、逆に言えば、県外からも呼び込むチャンスだとも思いますので、そこは先ほど新居委員さんがおっしゃったように「いかに特色を出していくか」というところになってくるかと思います。

徳島県の人って「何もないけん」とおっしゃるように、県民自身があまり魅力を感じていない部分があります。地域おこし協力隊などで来ている方々からの意見とか、いかにこの徳島の良さというところを拾い集めて、まず市民の皆さんや私たちが「魅力なんだよ」と感じてもらえることが先決なのだと思います。

今後、「いかに残すか」というところなのですが、今現在の時点ではなく、この先を見たところでいくと、徳島県の資料だったか、「toku-Noix (とくのわ)」という産官学が一緒になった施設を徳島

市内に作っているというところを見て、やはり市内で働ける場所を知らない方々、先生も含めて多いのではないかと思います。企業側としても学校側にこういう風なところを作ってプレゼンしているように、企業からももっと学生の皆さんに周知できるような、交流できる場所というのもあったらいいのかなと感じました。以上です。

【岩佐市長】

ありがとうございます。次に里美委員、お願いします。

【里美委員】

あらかじめお配りいただいた各校の資料を拝見して思いましたのは、阿南市は全国的に見たら小さな田舎町かもしれませんが、多様な高校があり、伝統のある高校がいくつかあって、国公立大学に進学するような高校もあって、支援学校も充実していて、高専があり定時制もある。これは地元の皆様は意外に気が付いていないのかもしれませんが、非常に素晴らしいことではないかと思います。

ですから、この今ある教育資源を活用して、さらにいかにして教育効果を高めるかということも、特化した分野を設けた学校を創設していくのと併せて、すでにあるものにさらに磨きをかけていくということも大事じゃないかなと思うんです。

私は英語塾をしており、今のこどもたち小学校から英語に触れる機会が比較的多いかと思うのですが、今のこどもたちは、私たちのような世代や団塊の世代の方々とはかなり違ってきて、世界情勢も不安定で常に戦闘シーンのようなものをニュースで見ているし、家庭が崩壊している事件も多いですし、わりと普通の穏やかな生活というのを求めているんですね。だから、以前のようにとにかく東京の大学に行きたいんだという子をあまり見かけなくなったんです。

むしろ家庭に迷惑をかけたくないからと、地元の国立に行って地元の看護師になったり企業に勤めたりしたいという堅実な子が増えてきたように思います。そういうことを考えたら、すでにある足元の対策をしっかり再点検して、例えば校舎や設備を充実していただくとか、アンケートを見てもみんなが興味があるのは国際性ということだと思うんです。なので、海外の学校とのZoomでの交流であるとか、英語教育にもっと特化するといったことをしてもいいのではないかと思います。

英検の2次試験も阿南市で10年くらい前まではできていました。でも、今は実施していただける学校がなくなりまして、わざわざ徳島大学あるいはもっと遠くまで出かけていかなければいけないんです。それはやっぱりハンデだと思うんです。いつものように自転車に乗って2次試験を受けるのと、わざわざ保護者の方に連れて行ってもらって2次試験を受けなければいけないのでは、やっぱり結果も違って来る面もあると思うんですね。

だから、私の意見としては、「いかに残すか」という観点ではこれは素晴らしいと思います。そうしなければこの地域が本当に衰退してしまうので、阿南市にもともと住んでいる方を流出させないように、阿南市にいてもできること、徳島市や県外に行かなくても基本的なことができる、これまで

の阿南の教育の良さというのを堅持するような視点も必要ではないかなと思います。以上です。

【岩佐市長】

ありがとうございます。坂本教育長、お願いします。

【坂本教育長】

まず、「行きたい学校」ということが出てくるのですが、昨日県内の公立高校の一般選抜の出願状況の一覧表が発表されております。あれを見ていると、先ほど里美委員からの御意見にありましたように、自分たちが思っている「行かせたいだろうな」と思う学校と若干違ってきているなどいうのを非常に感じました。

「行かせたい学校」というのが言葉として適切かどうか分かりませんが、より難関な大学に多くの卒業生を送り出すことができる学校へ行かせたいという、自分の中に染みついた感覚があるのですが、どうもそうではなくなってきていると実感するところがあります。

これは今年に限ってのことなのか、これがずっと続くようなことなのかを検証する必要があるかと思うのですが、本当に小学校・中学校の子どもたちが「行きたい」というのはどういうことなのか、自分がどういうことを目指すかということをしっかり捉えて対応していく必要があるのではないかと考えております。

ですから、通常の普通科という枠をしっかり広げて、それぞれのニーズに合った方向を目指していかなければならないのではないかと考えます。阿南市にはたくさんの高校があって、特に普通科で言えば富岡東、富岡西という非常に近い距離に2つの高校があります。それはある面では、メリット・強みだと思えます。他にこんなところはありませんので、それをしっかり生かせるような方策というのを市の教育としても考えていかなければならないと考えております。

小中高という連携はあるのですが、それを飛び越えたような連携が実際にはないところもございりますが、今回中学校と企業を結ぶような仕組みを市長さんの方が考えていただいて実施されるようですので、ぜひ小学校と高校を結んでいくとか、いろいろなつながりを深めて、地元の子が「ここへ行きたい」という風潮を作り上げて、阿南市の教育環境が保持できますように努めていただければと考えております。以上でございます。

【岩佐市長】

時間的にはそろそろ終了したいとは思いますが、他に何かもう一度これを言っておきたいというようなことがあればと思いますが、いかがでしょうか。林委員どうぞ。

【林委員】

事前に配っていただいた資料の28ページにありますが、教育長さんがおっしゃったように、まず普通科系は進学指導の拠点校と、そして2つ目に産業教育の拠点校、3つ目に1と2を併せ持つ

総合型拠点校を、阿南市だけでなく県南部全体の地域性や、牟岐線の今後のあり方といった交通インフラの課題も踏まえて検討する必要があります。

そうした観点から申し上げますと、例えば高校野球において、阿南市内では阿南光高校が健闘しておりますが、富岡西高校の関係者から「最近、海部高校とはいくら練習試合をしても勝てない」というお話を伺いました。その背景には、海部高校には寮が完備されており、甲子園出場を狙うような有望な生徒が県外からも集まっているという事情があるそうです。阿南市においても阿南寮等の充実により県外からの受け入れも可能となるのではないのでしょうか。

また、富岡東高校の看護科について現在は5年間の一貫教育で国家試験を受験する非常に専門性の高い課程となっております。県内に一つしかない看護教育の拠点のさらなる充実を図るには、交通の便が良い富岡東高校近辺に配置すれば、これまで以上に県内各地からの生徒が集まるのではないのでしょうか。

【岩佐市長】

ありがとうございました。まだまだ議論は尽きないところですが、時間の都合上、次に進めさせていただきます。

県立高校ですので、基本的には県で議論がされるかと思いますが、当市の教育委員会をはじめ、阿南市としても、先ほどいただいた御意見のようないろいろな特色を出して、存続できるような形を取っていただけるように持っていきたいと思っております。

加えて、そこにつながる小中学校についても、市教育委員会として可能な施策を実施するとともに、市長部局としても地域の魅力発信や中学生と地元企業との橋渡し等を通じて、地元愛の醸成に努めていくことが必要だと考えています。

今後、県で在り方についての議論が深まっていくと思いますが、存続に向けた意見等を求められた際には、本日の会議での御意見も踏まえて対応してまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

それでは、次の議題に移らせていただきます。協議事項の「徳島県公立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（案）」につきまして、学校教育課から御説明をお願いいたします。

【磯部学校教育課長】

失礼いたします。学校教育課でございます。よろしく願いいたします。徳島県公立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について御説明をいたします。

計画策定の背景といたしましては、令和7年6月に改正されました「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」が改正されたことにより策定が義務付けられております。各市町村単位で策定することも可能なのですが、徳島県全体の問題として課題を共有する中で、県教育委員会主導で各市町村教育委員会と共同で策定することになり、お手元の資料にお配りさせて

いただいたものがその案でございます。

目標といたしましては、1年間における1か月の時間外在校等時間の平均時間を30時間程度にする。また、1か月の時間外在校等時間が45時間以下の教育職員の割合を100%にする。年間の年次有給休暇の平均取得日数を15日以上にする。退勤時間から翌日の出勤時間までの間に11時間以上のインターバルを確保する割合を100%にする。教育職員が、児童生徒や保護者との信頼関係の構築や専門性の発揮などにより、生き生きと教育活動に取り組む実感を得られることを目指すとしております。

計画の期間といたしましては、令和8年度から令和11年度までの4年間を計画しております。計画そのものは令和8年4月1日から実施を予定しております。

取組の柱として4点ございます。一つ目といたしましてタイムマネジメントの徹底、二つ目は、業務改善のさらなる推進、三つ目は、外部人材の積極的活用、四つ目は、部活動の適正化としております。

計画の中には、教育委員会が取り組むべき内容、学校が取り組むべき内容、そして教職員自身が取り組むべき内容につきまして、それぞれ記載されています。内容といたしましては、本市から見るとかなりハードルの高いものもございますし、もうすでに着手している内容のものもございます。これまで取り組んできたものをさらに充実拡大することによりまして達成できるものもあるかと思えます。その中身について精査しながら、令和8年度からの着実な実施に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

策定までの日程につきましては、本日の総合教育会議での御説明と、この後の定例教育委員会で委員の皆様へ御説明をさせていただきます。3月23日に予定しております定例教育委員会で御協議と御承認をいただき、本市の計画を策定いたします。徳島県全体での取組となっておりますので、県内の市町村すべての定例教育委員会での御承認をいただかないと策定に至りません。お聞きしますと3月31日が県内の市町村で一番最後の定例教育委員会になっていると聞いておりますので、徳島県全体といたしましては、3月31日が策定日になろうかと思えます。そして、4月1日から計画の実施という流れとなっております。

以上、御説明とさせていただきます。よろしく申し上げます。

【岩佐市長】

ただいま学校教育課から説明がありましたが、これに関して、御意見等を順番にお願いしたいと思います。林委員からお願いいたします。

【林委員】

いただいている資料の7ページのちょうど真ん中あたり、「クラウドツールの活用促進」というところも重点の一つとして、教育DXロードマップで示された「やめることリスト」の取組について検討するとあります。これがどこから出されているのかまず調べてみました。デジタル庁から出

されておりまして、昨年の6月13日に公表されています。この「やめることリスト」の趣旨は、デジタル化によって教員の業務負担を軽減し、学習者に向き合う時間を創出することにあるとのことです。

リストには12の項目があり、電話等による児童生徒の欠席連絡のデジタル化から始まり、学校徴収金の管理などに至るまで様々な内容が含まれています。

毎月、各小中学校の月間行事予定が配られますが、一部の学校では給食費の徴収日が記載されており、今後変わっていくとは思いますが、学校の集金業務には依然として多大な時間と手間がかかっています。そこで、これら項目のデジタル化の進捗率を調べたところ、阿南市が全国平均を上回っていたのは「校内での情報の共有」（阿南市83%、全国平均77%）のみでした。

最初にお話しした欠席・遅刻・早退の連絡については、全国平均で45%がデジタル化されているのに対し、本市は10%（2024年データ）にとどまっています。また、「学校だより」や担任からのお便りのデジタル化は0%です。さらに、「校内での資料共有」は全国39%に対し本市は7%、「FAXでの原稿のやりとり」は全国23%に対し本市は13%となっています。デジタル庁のデータは全校を網羅したものではないとのことですが、こうした分野のデジタル化を推進することで、教員が子どもたちに接する時間を少しでも増やせないかと強く感じました。

2点目は、先ほど御説明のあった「外部人材の積極的活用」についてです。

吉井小学校の校長先生に伺ったところ、十数名の転入生のうち、遠方からの早朝送迎が困難であることを理由に入学を断念された家庭が1件あったとのこと。子どもを早く学校へ送迎することは、教員も早くから出勤していなければなりません。

都市部などでは、以前の定例教育委員会でも触れた「学校協働活動事業」を活用し、早朝の預かりを実施している事例があります。例えば、午前7時に保護者が子どもを送り、教員が出勤する8時までは、放課後の見回り等と同様に外部の支援員が体育館などで児童を預かるという運用です。

現状では、放課後の見回りや交通指導などもすべて保護者や教員が担っており、小学校では清掃指導もあるため、教員の休憩時間が十分に確保できていません。外部に委託できる業務については、活用できる事業が色々あると考えます。県からの説明会等もあると県教委生涯学習課からも伺っておりますので、市の担当課においてもぜひ情報収集を行い、現場に導入できる支援策を見つけていく方向で御検討いただければと思います。私からは以上です。

【岩佐市長】

ありがとうございます。次に新居委員、お願いします。

【新居委員】

学校の業務内容については詳しくは分からないのですが、よく聞くのは教員が足りないとか、教員のなり手も少なくなってきたということです。その中でやはりこのページにあるようにメンタルの部分で、せっかく教員になったのに教員同士のコミュニケーションが上手く取れないがために心

を病んでしまって辞職してしまうということがあります。経験年数の少ない教員に対する相談や支援体制がしっかりしていれば、もっと働きやすい環境で続けられるのではないのでしょうか。また、子どもたちとの関係もかなり大変だと思います。思春期の子どもたちを相手にしているので、先生たちは生徒との間、また教員同士との間で色々なストレスを抱えていると思いますので、そういった部分のサポートがしっかりできていればいいなと思いました。

それに伴って次のページにあります「支援スタッフの適正配置」、こちらはすごく大切なのではないかと思います。林委員もおっしゃったように、支援スタッフがいることによって本来の業務に専念することができるのではないかと思いますので、こちらの案はとても素晴らしいと思います。ぜひ活用していただきたいなと思っております。以上です。

【岩佐市長】

ありがとうございました。次に岡本委員お願いします。

【岡本委員】

一番気になるところが女性教員の出産後のキャリアと、どれくらいの方が復帰して現場に戻っているのかというところですね。女性の職業において出産で教員を一度諦めてしまったり、またそれがその後のキャリアにどう影響するかということにはわからないのですが、出産後も働ける環境ができているかというところが1点目です。

これは中学校の例なのですが、朝の会議をなくして30分くらい前倒しに学校を終われるようにしているということを経理先生から聞きました。そういうふうにして、できることの中で家族の時間を少しでも多く取れるよう早く終わらせる取組は助かるなというところがあるかと思いました。

もう1点なのですが、この目標の中で「児童生徒保護者の信頼関係の構築と専門性の発揮」というところで、DXやタブレット、タブレットの使い方も少し見直されていく方向であると耳にしたことがあります。やはり先生と生徒の関係性という関わり方はすごく大事な部分があるかと思うので、そういうところが希薄にならないようにしていただきたいなと思いました。以上です。

【岩佐市長】

ちなみに女性教員のキャリアについて何かデータとか持ってますか。

【磯部学校教育課長】

失礼いたします。出産や育児等で現場を離れた女性職員についてですが、日々学校現場ではさまざまな研修の案内等が送られてまいります。育休中の職員に対しても、そうした研修の周知とともに学校長から今の現場がどういう状態にあって、復帰した際にはこのような状況になっているということを適宜周知して、復帰の際のハードルができるだけ低くなるよう努めているところでございます。ですので、出産があるからそれが一つの障害になってというようなことは極力ないようにし

ているところがございます。

【岩佐市長】

里美委員、お願いします。

【里美委員】

これまで各委員の皆さんがおっしゃったことに同感です。特に岡本委員がおっしゃった、出産、それにプラスして介護についての支援について、特に気になりました。これは女性だけではなく、男性も当然取得するとよいものだと思います。

ただ、この同じページの上段に「意識を変容し」とありますけれども、制度は整っていてもなかなか進まないのは、無言の意識や目に見えない圧力のようなものが日本社会にはあるように思います。当地域が比較的それが強いのか、それとも比較的進歩的なのかは判断の分かれるところだと思いますが、教育という観点から考えますと、例えば男性の担任の先生が「赤ちゃんが生まれたので、世話をするため何か月か休職します」ということを小学生のこどもが聞くと、男の子も女の子も「ああ、そういうものなんだ」と思うでしょう。

その子たちが今後出ていく社会は、日本だけでなく国際的にも間違いなく男女が共に子育てをする社会です。そういう体験を通して意識が自然に変容していく教育的効果もあると思います。人手不足という課題もあってなかなか難しいかとは思いますが、前回の会議で市長が「阿南市の人口減少は若い女性の流出が原因だ」とおっしゃったことがとても印象に残りました。

ですので、子育てしやすく、休暇を取得しても嫌味を言われたり変な重圧を感じたりしない、むしろ励ましてくれる、そういう阿南市であってほしいと個人的に思います。御検討よろしく願いいたします。

【岩佐市長】

ありがとうございます。坂本教育長、お願いします。

【坂本教育長】

現在の女性の働き方等についてですが、制度的には非常に改革が進んでおり、いろいろな働き方が認められていますし、それを利用する方もたくさん出ています。パパ休暇と言われるものも、取得される方が年ごとに増えている状況です。

ただ、一番問題なのは、休暇を取ったときにその補充ができる人がいるかどうかということで、これが今一番の課題です。なかなかその補充が見つからないというところに大きな問題があります。自分が休暇を取ることにについて、周りは理解してくれているものの、現場を思うばかりに「自分が取ったら迷惑をかけるのではないか」という意識がつい働いてしまう部分が多分にあるのではないかと考えています。

ただ、先生方にも申し上げているのは、今の人数が少なく非常に厳しい状況で「こんな状況だから休んではいけない」「休むとその代わりに自分も大変になるから」という中では、教員の魅力がどんどん減ってしまうということです。人が増えてきた時に、その働き方が本当に活かされるような状況を作り上げていかなければならないということを、いろいろな機会に先生方にも話をしていますし、お願いもしているところです。

この業務量管理と健康確保の措置については、実際には難しいところもあります。阿南市にとってはハードルが高いところもありますが、やはり目指す方向としては、これをしっかり目指していかなければならない、今厳しくてもこれが普通になるような方向を目指して全県で取り組んでいかなければならないというのが、今目指している方向です。御理解のほど、どうぞよろしく願いいたします。以上です。

【岩佐市長】

ありがとうございます。里美委員から御意見いただいた休暇取得の点について、私も教育長と話をしていたのですが、なかなか代替職員の確保ができていないということを聞いており、急に休みを取ろうとしても、代わりに来てくれる先生が見つからないというのも大きな課題ではないかと思っています。

今回のこの計画を進めていくにあたっては、実際にフォローできる体制も同時に整備しなければ、本当に計画だけになってしまうおそれがあります。計画策定と同時にそうした仕組みもしっかりと構築していただく必要があると思っております。

また、最初に林委員から御意見いただいた「やめることリスト」、つまりDXによってやめられることも多分にあるかと思っておりますので、先ほど調べていただいた結果のとおり、まだまだ遅れている部分もあることを共有しつつ、すぐにできることはどんどん取り入れていけばよいのではないかと考えております。

私のこどもが高校生なので、県立の高校の例とはなりますが、出欠の連絡などは以前であれば電話で何時までにしなければいけないといったことがありましたが、今は独自の電子申請システムでできるようになっています。このようなところをどんどん取り入れていかなければいけないと思っております。

計画の策定は、先ほどの定例の教育委員会での決定ということになりますが、同時にそれを実効性を高めるような施策についても検討していけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、協議事項2は以上とさせていただきます、協議事項3に移りたいと思います。「こども議会の提案への対応」について、まずは企画政策課から説明をお願いします。

【七條企画政策課長】

協議事項3「こども議会の提案への対応」について、御説明申し上げます。

今年度7月の第1回目の阿南市総合教育会議でも御案内させていただきましたとおり、夏休み中の8月20日に合併20周年の記念事業の一環として、市内中学校を対象とした阿南市子ども議会を開催いたしました。

阿南市の子ども議会は過去に計5回開催しております。その内4回は小学生を対象としており、今回中学生を対象としたのは第1回目となる平成5年に開催して以来、約32年ぶりの開催となりました。

開催にあたりましては、教育長をはじめ学校教育課、各中学校には子ども議員の選出から意見の取りまとめ、また各中学校の先生方には当日の生徒さんへの随行など、大変お世話になりましたこと、深く感謝申し上げます。

おかげさまで市内の中学校9校から2名ずつ計18人の中学生議員を選出していただき、市政に対する意見や質問、また身近な学校生活で思うことや提案などを発表していただき、市長、教育長及び関係部長がお答えする議会形式で実施させていただきました。当日は教育委員さんにも傍聴にお越しいたいただき、ありがとうございます。

この子ども議会の様子はケーブルテレビにて10月から複数回放映されております。また会議録につきましても、阿南市のホームページに掲載しております。

本日は議員となった中学生からの意見や提言について、子ども議会を言ったきりにしないよう、その意見に対する市の取組状況について報告させていただきます。資料2の取組状況と子ども議会の会議録を参照しながら、順を追って御説明させていただきます。

まず1番目、阿南中学校です。会議録は6ページになります。阿南中学校は岡澤さんと二階さんから阿南市の観光PRと学校生活についての質問と提言をいただいております。岡澤さんからは観光をもっと多くの人に知ってもらうために、どのような取組をしているのかと、高速道路ができるメリットについて質問がありました。現段階での市の取組としては、観光につきましては観光パンフレット英語版を作成することになっております。阿南市インターチェンジが3月8日に開通するのですが、インターチェンジ周辺の利用検討も進めております。二階さんから質問のあった学校の校則については、生徒の意見を反映させた見直しを進めています。

10ページの阿南第一中学校です。第一中学校からは入口さんと金谷さんに出していただき、入口さんからも豊かな自然を生かした観光PR、そして11ページの金谷さんからは学校給食について質問をいただいております。観光PRについてはふるさと大使とのさらなる連携強化を、学校給食については小学校の給食無償化・地産地消の推進を進めているところでございます。

続いて、14ページの加茂谷中学校からは町田さんと澤田さんが来ていただきました。町田さんからは県が進めております、ラーケーションについて、澤田さんからは特色ある学校の取組を教えてくださいということで、ラーケーションについては、この後の定例教育委員会の議題にもなっているようですが、導入を進めております。澤田さんからの特色のある学校の取組について教育長が答弁していただいたとおり、スクールバスでの学校の交流やオンラインでの交流の検討をしているところでございます。

続いて 19 ページ、阿南第二中学校は芳川さんと吉原さんに来ていただき、20 年後の阿南市についてというテーマと防災対策についての質問をいただいております。20 年後の阿南市についての答弁の中で、こどもや若者の意見が発表できる場の構築をしていくという答弁で、来年度も計画をしております。芳川さんの防災対策については、阿南第二中学校で防災士の資格取得を支援しており、もうすでに5人の方が防災士の資格を11月に取られたと聞いております。

続いて 23 ページ、福井中学校です。福井中学校から宮崎さんと中川さんに来ていただき、防災対策と災害時の人権教育についての質問をいただいております。防災対策については関連して、小学校での防災訓練を今年数多く危機管理課の方で行っています。9月30日には橘小学校、10月3日に大野小学校、10月29日は長生小学校、1月に横見小学校、2月に大野小学校、昨日の2月18日にも中野島小学校で防災訓練を実施しているようです。また、通学時における避難訓練もすでに実施していると聞いております。スクールバスの運行管理マニュアルに沿った通学時における避難訓練を実施しています。

続いて、26 ページの新野中学校から岩崎さんと尺長さんに来ていただき、学校生活と高齢者の生活についてということをご提言いただいております。学校生活については、休み時間などで一人で静かに過ごしたい人もいますので「穏やかルーム」の設置を提案してくれています。これについては穏やかルームの設置に向けた具体的な検討を進めていると伺っております。尺長さんは中学生と高齢者の方々の交流イベントということで、あななんサロンというのがあるのですが、あななんサロンで中学生との交流を推進しております。

31 ページの那賀川中学校で斎藤さんと吉岡さん。斎藤さんからは市にあるこどもの遊び場が少ないということをご指摘いただいたのですが、市の公園の整備に向けて遊具の点検や遊具の修繕をしております。吉岡さんからいただいた市の観光 PR については、阿南市の観光地を知らないという意見がかなり多いみたいなのですが、DX 推進課と協働して公式 LINE や各種 SNS の充実を図っております。特に公式 LINE の登録者数のアップを目指しており、成人式や防災訓練など至る所で公式 LINE の登録者数増を掲げております。その結果、昨年度は LINE の登録者数が1万1,800人程度だったのですが、現在1万3,000と1,200人程度増えている状況でございます。

36 ページ、羽ノ浦中学校の遠藤さんと野村さんから、スポーツ・部活動についての提言をいただいております。小学校の体育館の空調設備の推進を進めています。今年度は中野島小学校、宝田小学校、桑野小学校、長生小学校の4校をモデルとして設計し、来年度に設置、来年度も4校の空調の設計を行うと聞いています。野村さんからの提言でスポーツに触れる機会をもう少し充実させたらどうかということだったのですが、初心者向けのスポーツ教室の開催ということで、この祝日2月23日にあなんキッズスポーツフェスタというイベントをしんきんサンアリーナで開催予定です。

40 ページの富岡東中学校ですが、西さんと西谷さんに来ていただき、西さんからは防犯灯のこと、西谷さんからは新しく整備する図書館のことを提言いただいております。防犯灯については毎年30基程度の設置をしているのですが、今後も計画的に設置していくという回答をもらっており、実際進めているようです。図書館は現在設計しているのですが、この設計の中に提言をいただきまし

た音読スペースや表紙の見える本棚などの設置ということも取り入れて設計を進めることとしております。

簡単ですが、以上となります。今回のこども議会ではこども議員の皆さんから未来を見据えた貴重な御意見や阿南市を思う熱心な御提言を数多くいただきました。いただいた一つ一つの声はこれからの市政を動かす大切な原動力でもあります。皆さんの思いをしっかりと受け止め、形にするための取組を進めてまいります。またこの具体的な進捗については来年度の予算の確定等もありますので、確定等をもって公表もさせていただく予定であります。

こども・若者の意見を聞く場というのは本市総合計画にも入っています。『阿南市「新行財政改革」推進プラン2025▶2028』においても、若者世代の政策参画機会の拡大という重点項目を掲げていますので、来年度もこのような形でこどもや若者の意見を聞く場を構築・設定したいと思っております。来年は議会形式ではないのですが、先ほど岡本委員がおっしゃった企業連携的なこととか、教育長からの小学校や高校との交流とかも含め、市長と相談していきたいと思っております。

以上で説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【岩佐市長】

ただいま説明いただきましたけれども、こども議会への対応等について何か御意見とか御質問等があれば順次お願いいたします。

【林委員】

校則の見直しについて、この資料にも記載されておりますように、市長さんが答弁してくださったということ、関係の保護者の方々もこどもたちに対して真摯に答えてくださったということで喜んでおりました。

こういった機会が確保できたということは素晴らしいことだと私も思いました。特に国連も世界で実現しないといけないのが「子どもの権利条約」で、その中でも「意見表明権」というものを確保しなければいけないということでよく言われているのですが、あの場で発言の機会を設けてくださったということで、今後は、やはり校内で発言の機会をどう確保していくかということが重要になってくると思われまます。

どの学校においても人権集会というものをやっております。12月の人権週間に実施している学校が多いと思われまます、児童会あるいは生徒会から提案された人権に関する議論を交わす中で、この校則についてもたくさん出てきていると思います。そういったそれぞれの学校での人権教育が児童、生徒の立場に立って教職員集団が受け留めることが最も肝要であると強く感じました。

今年度の全国人権・同和教育研究大会で加茂谷中学校の先生が報告した時に、学校が変わったきっかけは何かということが議論の中心となりました。やはり、その校長さんの取組への姿勢、つまり学校現場がこどもの意見をどう受け留めてくれるか、やはり教職員の人権意識が一番大切であると確認し合いました。できる限りトップに立つ、あるいは組織の推進役となる方々こそがいろいろ

な研究会に参加していただけるとありがたいなど、今年の全国大会が終わった時にそんな話が出ました。

【岩佐市長】

ありがとうございます。それでは、新居委員お願いします。

【新居委員】

こどもの意見というのは飾りがなく、本当にストレートで、自分たちが思っていることをしっかりと本当に飾ることなく伝えてくれるものだと感じながら拝見させていただきました。その中でやはり学校の校則だったり防災だったり、色々意見は出ますけれども、私が感じたのは、この阿南に住む中学生が高齢者のことを心配したり、高齢者との交流を考えたり、阿南という市がすごく豊かで愛情に溢れた環境にあるんだなということ、だからこそ、こどもたちの会話の中からそういうことが自然に生まれ出てくるんだなということにとっても喜びを感じました。引き続き住みやすい阿南市ということで取組をしていただけたらありがたいと思っております。ありがとうございます。以上です。

【岩佐市長】

それでは、岡本委員お願いします。

【岡本委員】

中学生の皆さんがこの質問をされる時は、真剣に地元の阿南市のことを考えて出された質問だと感じます。

市の観光PRについてですが、私も事業をしており、新しい事業を始める際は、まず知人や身内といった口コミが一番の営業力になると実感しております。那賀川町で壁画を制作し、それをPRしていく中で、現在、奈良県人会や和歌山県人会の方々との交流が深まっています。そうした方々の中には、地元が阿南市という方も結構たくさんおられます。「ぜひ阿南市に帰ってきた時は遊びに来てください」という話をするのですが、市外へ出られた方は地元が好きなんですね。

そういった方々にもっとアピールして、その人たちから口コミで発信していただくことができれば、もともと阿南市が好きな人がたくさん発信してくれるのではないかと思います。

以上です。

【岩佐市長】

それでは里美委員、お願いします。

【里美委員】

私は過去2回、こども議会に参加させていただき、今回は本当に久しぶりに拝見しました。

以前はイベント的な要素が強く、大人によって整えられたシナリオの中に子どもが参加するという感じでしたが、今回は本当に子どもたちが自分で考えて堂々と意見を発表していました。これは最近の「考えて自分の意見を言う」という教育が実を結んでいるのかなと感じました。

また、市長さんや教育長さんをはじめ答弁に立たれた行政の方々も、単に子どもの意見だから聞いておこうという態度ではなく、その意見を取り上げて前向きに、実践的に行政の中で生かしているという姿勢を答弁から感じました。これは素晴らしく、本当に参加してよかったという印象が残っています。

他の方々がおっしゃった防災、高齢者、観光のことは、本当にそのとおりだと思います。私が子どもたちと同じだなと思ったのは、「こどもの遊び場がない」という御意見と関連した「防犯灯を増やす」「通学路の安全確保」ということでした。

この会場におられる大人の皆様はほぼ車で移動されていると思いますが、私は車の運転があまり得意ではないので自転車か徒歩です。つまり、子どもたち・中学生たちと同じような視点から町を見ているということになります。

そういう意味で、田舎で自然が豊かなのに歩きにくく、その自然を享受できるだけの施設が十分整っていないと日頃感じています。私も先日、夜ウォーキングをしていて歩道の段差につまずき、腰を痛めました。決して歩きやすい環境ではないと思います。

子どもたちはそういうことにちゃんと気づいて、「阿南市は好きだけれど安全じゃないし歩きにくい」ということを言っているのだと思います。

ですから今後、「車社会だから」と言ってしまうのではなく、お年寄りや子どもたちが移動しやすいようなまちづくりを心がけていただきたいと思います。若い女性がベビーカーで散歩している姿も、お年寄りが歩いている姿もあまり見かけませんよね。そういう光景を目にするようになれば、子育てしやすく若い人たちにとって住みやすいということも、自然とPRすることができると思います。

また御検討をよろしくお願いいたします。

【岩佐市長】

最後に坂本教育長、お願いします。

【坂本教育長】

この子ども議会を通して、今の中学生は本当にしっかりしているというのが第一印象でした。自分が中学生の時にはこんなことを考えられなかったと思うような、非常にしっかりした視点を持っています。

そして、本当にこどもらしい素直な目で現状の問題等を的確に捉え、あの場でそれを堂々と発表できることに本当に頼もしく思いましたし、将来は明るいなという印象を持ちました。

「ふるさと阿南を大切にしたい」「大好きだからもっと輝いてほしい」という思いがどの議員さ

んからも伝わってきました、本当にこちらも背筋がピッと伸びるような思いで答弁させていただきました。

冒頭に西岡課長から阿南の教育の理念として「学び つながり 輝け 自分」ということをお伝えしましたが、このこどもたち含めて阿南市のこどもたちがますます輝いていけるよう、これからも努めてまいりたいと考えております。

この議会の開催にあたっては担当課が非常に大変な思いの中で開催していただいておりますので、なかなか毎年というわけにはいかないと思いますが、さまざまな機会を捉えてこどもたちの意見を吸い上げることの大切さを、これからも大事にしていきたいと思っております。

どうもありがとうございました。

【岩佐市長】

ありがとうございました。今回、こども議会という形で開催させていただきましたが、委員の皆さんからおっしゃっていただいているとおり、参加した生徒の皆さんは本当にしっかりしていました。

私としては、こうした機会を通じて、生徒たちに改めて阿南市のことを見つめ直していただき、阿南市の現状を知ってもらうこと、その中で様々な課題を見つけて解決に導こうとする地元愛のようなものを育ててほしいというのが一番の思いでした。また、自分たちが意見を言うことで課題の解決につながったという達成感も味わってみたいと考えていました。

当然、質問したきりで終わりとするのではなく、実際に施策として動かしていくため、担当課等といろいろ調整し、多くの方々にかかなりの負担をかけたと思いますが、本当にやってよかったと思っています。

今回、このように委員の皆さんには市政への反映状況をお示ししていますが、発表した生徒たちにもしっかりと結果をお返しして、「自分たちが言ったことでまちが変わっていく」ということを実感してもらいたいと思っています。これは発表者に限らず、できれば裾野を広げて、今のこどもたちが自分たちのまちを見つめ直し、当事者としてより良いものにしていこうという動きになってほしいと思っております。

まだ議会を通ったわけではありませんが、今年度当初予算案に計上していますので、来年度もこのようなこどもの意見表明ができる場はしっかりと確保していきたいと思っています。議会形式ですと形式的になってしまうかもしれませんので、今のところは「こども会議」という名称で、いろんな意見や問題解決に向けた取組を進めていきたいと考えています。

教育委員の皆さんにも御支援や御提言をいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

最後に協議事項4「その他」についてですが、委員の皆さんから何かございますでしょうか。では、里美委員お願いします。

【里美委員】

せっかくの機会ですので、将来に向けての検討としてお聞きいただけたらと思います。

吉井小学校の新しい取組についてのお話を聞いて、素晴らしいなと個人的に思いました。ただ、もし私が通わせたいと思っても、私の場合は無理だなと思いました。申し上げたように車の運転が苦手ですので、スクールバスがなければその時点でもう通えないということになります。そういう方もいらっしゃるのではないかと思います。

昔でしたらおじいちゃんおばあちゃんが孫の世話をしていたという世代の方もいらっしゃると思いますが、今はおじいちゃんおばあちゃんも現役の方が多いので、孫の世話をできる方はそれほど多くないと思います。

再編統合が進んできると、どうしても通学のバスが今後必要になると思いますので、財政的なこともあります。今後御検討いただけたらと思います。よろしく願いいたします。

【岩佐市長】

ありがとうございました。他に何かございましたか。

【林委員】

里美委員の御意見に関連してお話します。

新野小学校の校区も非常に広範囲にわたります。例えば、新野西小学校区から通学する児童に対しては、乗り合いタクシーの利用など財政的な支援が確保されており、遠方からでも通学できる環境が整えられています。

4月以降に向けた多様な運用方法として、例えば小学生が中学生用のスクールバスへ同乗（混乗）することや、特定の地点まで公共バスを利用し、そこからスクールバスに乗り継ぐといった、行政による一層のバックアップ体制が整備されると良いと考えており、私も同感です。

【岩佐市長】

ありがとうございました。他よろしいですか。それでは以上をもちまして、協議を終了させていただきます。事務局の方へ進行をお返しいたします。

【七條企画政策課長】

委員の皆様ありがとうございました。限られた時間の中ではございますが貴重な御意見を頂戴いたしまして心より感謝申し上げます。本日いただきました御意見はこの後の取りまとめと今後の検討にしっかりと生かしてまいります。それでは閉会にあたりまして、岩佐市長から御挨拶を申し上げます。

【岩佐市長】

1時間半という限られた時間でしたが、まだ言い尽くせないところもあったかと思えます。貴重な御意見をいただき、ありがとうございます。皆様からいただいた御意見については、今後、市長部局としてもしっかりと検討させていただきたいと思っております。

冒頭の高校再編についてですが、少子化ということを考えた時に、現在の高校生は一学年約600人いるのに対し、昨年の出生数は約360人でした。一昨年に比べて10人ほど増えてはいるものの、それでも360人という状況です。そうなると一学年で10～11クラス程度となり、半減してしまいます。

ですから、高校の再編についても、将来的にはそれだけのクラス数になってしまうということも見据え、出生数を増やす取組を進めながら、同時に半減する生徒数に対応した環境整備も必要だと考えています。

子育てや教育環境は、居住する地域を選択する重要な要因の一つです。「徳島市内の方が教育環境が良い」という理由で、阿南市で仕事をしながらも住まいは徳島市内を選ぶ方も一部にはいらっしゃいます。こうしたケースをなくすためにも、高校の在り方も含めて、教育面でもより充実した阿南市にしていかなければならないと思っております。

引き続き委員の皆様方にもいろいろな御意見をいただけたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

【七條企画政策課長】

委員の皆様ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。それではこれを持ちまして、令和7年度第2回総合教育会議を閉会いたします。皆様ありがとうございました。

14:55 閉会